

# 1999 神戸学院大学 Green Festival

第147回

10月31日(日)15:00開演

●藤本真基子 ピアノ・リサイタル

第149回

11月13日(土)15:00開演

●林泉弦楽四重奏団と  
仲間たちによるアンサンブル

ギター／稲垣 稔  
ピアノ／野網 泉  
コントラバス／林 俊武

第148回

11月6日(土)15:00開演

●デュオ・ハヤシ リサイタル

チェロ／林 俊昭  
ピアノ／林 由香子

第150回

11月27日(土)14:00 (開演時刻にご注意ください)

●長谷川陽子 チェロ・リサイタル

3大B組曲・ソナタ全曲連続演奏 第6回 (最終回)

第151回

11月30日(火)16:30 (開演時刻にご注意ください)

●琵琶と狂言で綴る「平家物語」の世界

琵琶／田中 旭泉  
狂言／茂山 七五三、松本 薫、茂山 正邦、茂山 茂

第152回

12月4日(土)15:00開演

●仲道郁代 ピアノ・リサイタル

ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 全曲連続演奏 第5回

第153回

12月20日(月)15:00開演

●初期イタリアン・バロック音楽の午後

ソプラノ／鈴木美登里  
チェンバロ／鈴木 雅明  
ハープ／西山まりえ  
チェロ／鈴木 秀美

●入場無料

会場／神戸学院大学メモリアルホール(9号館)  
主催／神戸学院大学  
後援／兵庫県・(財)神戸市民文化振興財団

インターネットホームページ <http://www.kobegakuin.ac.jp/>



- お申込方法 ◎官製復元ハガキを使用してください。申込者多数の場合は抽選になります。
  - ・ 往信裏面に①公演日 ②公演名 ③住所 ④氏名 ⑤電話番号をご記入ください。
  - ・ 返信表面にお申し込みの方の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。
  - ・ 返信裏面は空白のままにお願いします。
  - ・ 1枚につき1公演、1名様のみのお申し込みになります。
  - ・ 受付期間は各公演の1カ月前～2週間前(必着)です。
  - ・ 学齢期に達していないお子さまの申込および入場はできません。
- お申込み・お問い合わせ先  
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518  
神戸学院大学グリーンフェスティバル係 電話078-974-1551(代表)
- 交通経路と所要時間
  - ① JR「明石」駅より「神戸学院大学行」バスに乗車(約25分)
  - ② 神戸市営地下鉄「伊川谷」駅より「神戸学院大学行」バスに乗車(約15分)※お車でのご来場は固くお断りいたします。

## 藤本真基子 ピアノ・リサイタル

●曲目 ●D. スカルラッチィ……5つのピアノ・ソナタ

ト長調L.84/二短調L.413/ハ長調L.104/二短調L.108/二長調L.465

- バラキレフ……つばめ(グリムカの歌曲による)
- バラキレフ……東洋風幻想曲「イスラメイ」
- ショパン……スケルツォ 全曲 第1番 短調 作品20/第2番 変ロ短調 作品31/第3番嬰ハ短調 作品39/第4番 変長調 作品54 (没後150年記念)

地元出身の将来性ある新進アーティストをご紹介しますシリーズのひとつです。神戸女学院音楽学部、専攻科の出身。吹田音楽コンクールや宝塚ベガ音楽コンクールでの入賞歴があります。過去2回フェスティバルに登壇された名手 野平一郎氏のお弟子さんで、すばらしい感性の持ち主ですが、上記のようになかなか個性的なプログラミングを披露されます。端正なスカルラッチィに続いて、技巧的な切れ味の中に東洋風ムードをかもし出すバラキレフ。後半は記念の年に当たるショパンの美しいメロディにたっぷりひたっていただきます。

## デュオ・ハヤシ リサイタル

●曲目 ●A. ルービンシュタイン……チェロ・ソナタ 第1番 二長調 作品18

- ベートーヴェン……チェロ・ソナタ 第4番 八長調 作品102-1
- ショパン(没後150年記念)……チェロ・ソナタ ト短調 作品65

「究極の室内楽」との評判をとったご夫妻の、通算6回目ながら久々の登場。ますます円熟の活動を活発にくり広げられているお二人の演奏の素晴らしさは過去の公演の反響が証明しています。今回は紹介を続けておられる「知られざる名曲」のシリーズからルービンシュタインの第1番のソナタ、1曲はぜひ入れたいとおっしゃるベートーヴェンから第4番のソナタを選び、締めくくりとして、私どもからお願いした記念の年に当たるショパンのソナタが登場します。「ピアノの詩人」のピアノ以外の曲はごく限られています。その中でこのソナタはチェリストがよくとりあげる佳曲です。

## 林 泉 弦楽四重奏団と仲間たちによるアンサンブル

●曲目 ●ドヴォルザーク……弦楽五重奏曲 第2番 ト長調 作品77

- フンメル……ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品87
- カステルヌオヴオーテデスコ……ギター五重奏曲 作品143

地元で着実な活動を続ける林さんご夫妻のグループのご出演も久しぶりで、これが4回目です。同じく地元在住の2人のアーティストに華を添えていただき、変化に富んだプログラムを披露します。コントラバスの入るドヴォルザークの五重奏曲は室内楽にも佳曲の多い彼の作品中でも注目すべきものであり、登場3回目の野網さんのピアノによるフンメルはシューベルトの「鱈」と同じ編成の知られざる佳品、一昨年の初登場で高い評価を得た稲垣氏を中心としたカステルヌオヴオーテデスコも洗練された味わい深い名曲。ギターと弦楽四重奏の組み合わせは必ずしも多くないだけに、皆様のご興味をかき立てるものでしょう。

## 長谷川陽子 チェロ・リサイタル

●曲目 ●J.S. バッハ……無伴奏チェロ組曲 第2番 二短調 BWV.1008

- J.S. バッハ……無伴奏チェロ組曲 第4番 変ホ長調 BWV.1010
- J.S. バッハ……無伴奏チェロ組曲 第5番 八短調 BWV.1011

好評の3大B連続演奏はブラームス、ベートーヴェンを終え、昨秋からバッハに入っています。この春から始まった6曲の無伴奏組曲はチェロの世界における「旧約聖書」に相当する名曲で、その半分が紹介された前回のリサイタルでは、たった1挺のチェロがいかに大きな世界を表現するかを多くのお客様がアンケートに記して下さいました。実演と平行して録音されたこの6曲のCDも今回のリサイタルの頃は発売が予定されていますが、残りの3曲が紹介される今回をもって、6回に及んだ連続演奏の結びとなります。偉業達成に絶大なる拍手を御願い申し上げます。なお、今回のみ開演時刻が早くくなってますのでご注意ください。

## 琵琶と狂言で綴る「平家物語」の世界

●演目 ●筑前琵琶「那須余市」(田中旭泉)

- 狂言語「那須」(松本薫) ●平家節(茂山七五三) ●狂言「膏薬煉」(茂山正邦、茂山茂)

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」の一節から始まる『平家物語』は、源平の武将たちを哀切に描き、日本人が愛してきた作品の一つです。その『平家物語』は文字で書かれたものではありません。琵琶法師が語り聞かせることで多くの人が楽しんできた作品でした。筑前琵琶の田中旭泉さんは、その弾き語りの伝統を伝えて、今もとても注目されている演奏家です。まだ二十代の若さ、NHKコンクール最優秀賞受賞者というキャリア。彼女の登場によって、琵琶の世界に新風が起きています。語っていたのは「那須余市」。屋島での戦いで那須余市が扇の的を射おとす有名な場面です。

実は、狂言も『平家物語』を題材にしています。代表的なものは、同じ那須余市を描いた語り「那須」。源義経、那須余市など一人で何役も語り分ける難しい語りです。もう一つは琵琶法師の音曲「平家節」。筑前琵琶より古態を残すかもしれません。ただ歌詞は狂言らしくすっきり滑稽になっています。そして狂言「膏薬煉」。源平の争いを下敷きに鎌倉と京都の膏薬売りも言い争う話です。いずれも茂山家のみなさまの出演です。

琵琶と狂言。中世から伝わる芸能が、同時代の『平家物語』をどんなふうにか描き分けてきたのか。興味の尽きないジョイント公演です。

## 仲道郁代 ピアノ・リサイタル

●曲目 ●ベートーヴェン……ピアノ・ソナタ 第19番 ト短調 作品49-1

- ベートーヴェン……ピアノ・ソナタ 第20番 ト長調 作品49-2
- ベートーヴェン……ピアノ・ソナタ 第21番 八長調 作品53「ヴァルトシュタイン」
- ベートーヴェン……ピアノ・ソナタ 第22番 変長調 作品54
- ベートーヴェン……ピアノ・ソナタ 第23番 変短調 作品57「熱情」

もうひとつの連続演奏はさらに長丁場で、前回でやっと半分を終了しました。今回は作曲者 33~35歳の彼独自の様子を築きあげ、「傑作の森」と言われる諸作を生み出した時期の作品で、「ヴァルトシュタイン」と「熱情」に期待が集中するでしょう。全32曲の中でも最も人気があるこの名曲は仲道さんもしばしば手がけておられますが、さかのぼって25歳頃に書かれた作品49の2つの美しい小品と、2曲の巨峰の間であって、不当に低く評価されながら決して「副産物」ではない作品54と合わせ、お客様の興奮をいやがらにも高めるリサイタルとなることでしょう。

## 初期イタリアン・バロック音楽の午後

●曲目 ●モンテヴェルディ……ああ、私は落ちてゆく/あの高慢な眼差しは

- フレスコバルディ……そよ風が吹けば/カンツォーン/パッサカリアによるアリア/チェント・バルディーテ/甘き苦しみ
- ガブリエリ……リチエルカーレ
- カリッシミ……これが望みですか
- ディンディア……私の涙に獣たちも
- ロッシ……カンタータ「嫉妬」
- 作者不詳……トゥカータ

バッハ・コレギウム・ジャパンを率いて、BISレーベルのCDでバッハのカンタータ全曲という壮大な企画を進行中の鈴木雅明氏と弟さんご夫妻のフェスティバル初出演。松蔭女子大学へ定期的にご出演になっていますから、その世界でもトップクラスのバロックものに接しておられる方も多いでしょう。4月の大阪での「マタイ受難曲」も感動的な演奏でした。私どものところへもご出演いただきたいと思っておりましたが、今回はお友達のお西山さんを加えて、そう再々は無難な初期バロックものでプログラムを組んで下さいました。すばらしい雅びの世界にひたれるコンサートになることうけあいです。